

1. 略歴

1987年3月	京都大学文学部卒業（文学士）
1989年3月	京都大学大学院文学研究科修士課程（ドイツ語学・ドイツ文学専攻）修了（文学修士）
1990年3月	京都大学大学院文学研究科博士後期課程（ドイツ語学・ドイツ文学専攻）退学
1990年4月	神戸大学教養部助手
1991年10月	神戸大学教養部講師
1992年10月	神戸大学文学部講師
2000年10月	神戸大学文学部助教授
2000年4月	文部省在外研究員としてドイツベルリン自由大学に留学（2001年2月まで）
2007年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授
2018年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授（現職）

2. 主な研究活動

a 専門分野

近代ドイツ語圏文学

b 研究課題

18世紀の文学と思想が研究の中心にある。もともと初期ロマン主義研究から出発し、ノヴァーリスを中心に仕事を進めてきた。とくに超越論哲学および自然科学との関係において初期ロマン主義が展開した独自の表現技法と、その背景にある言語観と芸術観が興味の中心にあった。また、その問題意識を継承する20世紀の文学者や思想家の系譜も研究の対象となった。現在は、啓蒙期の文学と思想を、ロマン主義の前史という観点に限定されることなく研究している。また、18世紀以後、ドイツ語圏にあって、自然科学者であり、あるいは自然科学研究から出発しつつ、文学者であった人ターハラー、リヒテンベルク、ノヴァーリス、アルニムから現代にいたるまで—の営みを〈実験者の文学〉という観点から跡付ける作業を進めている。同時に18世紀から19世紀初頭における古典古代の受容にも関心があり、現在はヴィーラントを中心に検討している。

c 概要と自己評価

ドイツ文学の研究に携わった当初に集中的に研究対象としていたノヴァーリスと、『リヒテンベルクの雑記帳』刊行後も研究を続けているG.Ch.リヒテンベルク（1742-1799）について、それぞれ研究発表と論文等の執筆を行った。また、ノヴァーリスにも大きな影響を与えたドイツ近世・近代の言語論について概括的な叙述を試みたが、ノヴァーリスやリヒテンベルクの言語観を検討する際にはこうした観点が不可欠であると改めて確認することとなった。

ドイツロマン主義・啓蒙主義をさまざまなコンテクストにおいて検討するという年来の研究方針、および18世紀ドイツにおけるAntike受容の再検討というプロジェクトは継続中であり、Ch. M. ヴィーラント（1733-1813）についての九州大学文学部での集中講義は非常に有意義なものとなった。

d 研究業績

(1) 論文

「〈自然〉の諸相——近世・近代ドイツ言語論における〈自然〉〈起源〉〈超越者〉の関係をめぐる」、『ドイツ語が拓く地平 ノモスとしての言語』3巻、大宮勘一郎・田中慎（編）、ひつじ書房、2022、pp.67-93

Shinji Miyata: „Durch das Planlose Umherstreifen durch die planlosen Streifzüge der Phantasie wird nicht selten das Wild aufgejagt.”

Einige Bemerkungen zum Phantastischen bei Lichtenberg. In: Japanische Gesellschaft für Germanistik (Hg.) *Phantastische Literatur* (Akten des JGG-Kulturseminars Band 2). München (Iudicium). 2023. S.33-47

(2) 翻訳

ノヴァーリス:「フィヒテ研究」抜粋（翻訳・注釈・解説）(2)、『多様体』第5号、月曜社、2023、pp. iii~xxxiii.

(3) その他（事典の項目執筆など）

「ロマン主義の文学と宗教（ドイツ語圏）」、『キリスト教文化事典』、キリスト教文化事典編集委員会編、丸善出版、2022、pp.222-223

「リヒテンベルク」、『啓蒙思想の百科事典』、啓蒙思想の百科事典編集委員会編、丸善出版、2023、pp.260-261

「ノヴァーリス生誕250年」、『ひろの』、公益財団法人ドイツ語学文学振興会、第62号、2022、pp.24-25

(4) **口頭発表**

二つの「自然に対する矛盾した態度」——ノヴァーリスとリヒテンベルク——（シンポジウム「ノヴァーリスと」世界の意味」における発表、第56回ゲーテ自然科学の集い、2023.11.3、於神戸大学文学部）

e 社会活動

(1) **学術貢献活動**

日本独文学会・DAAD 賞、選考委員長、2023

f その他

(1) **非常勤講師**

九州大学文学部（2022. 12、集中）、中央大学経済学部

(2) **学会・委員活動**

日本独文学会監事（～2023. 6）、日本シェリング協会理事（2008～）